

炎症性腸疾患 (IBD)・良性腸疾患センター

● スタッフ (2021年10月1日現在)

センター長	勝又 健次 (消化器外科・小児外科 教授)
内科センター長	福澤 誠克 (消化器内科 准教授)
副センター長	西亦 繁雄 (小児科・思春期科 講師)
	栗原 寛 (消化器外科・小児外科)
	班目 明 (消化器内科)
	堤 範音 (小児科・思春期科)
	篠原 祐和 (消化器内科)
	根本 大樹 (消化器内科)
	一宮 匡 (消化器内科)
	石崎 哲央 (消化器外科・小児外科 准教授/兼任)
兼任教授	吉村 直樹 (消化器内科)

● 診療科の特色

内科・外科・小児科と他職種連携による医療体系を構築

炎症性腸疾患 (IBD) は難病に指定されています。1960年代には本邦ではまれな疾患でしたが、現在はアメリカに次ぐIBD発症国になりつつあります。小児から若年者での発病が一般的ですが、高齢者での発症・重症化が問題になっており、幅広い年齢層で発症します。専門性が高く、長い経過をたどるために大学病院として十分な治療体制造りと、小児科・内科および外科の密な連携を図るために2020年11月に発足しました。

特徴は薬物投与・看護・ストーマ・メンタルケアを含めた癒合横断的診療を可能とするためにチーム医療を実践するセンターとして発足しました。難病ですが、栄養療法と薬物療法で多くは病勢管理が可能です。内科では最先端の内視鏡検査と狭窄拡張ESDなど内視鏡治療を行っています。これらの治療も手術で適格な対応ができてはじめて可能で、そのために当センターでは外科の専門医を設け、消化器外科の協力を得て腹腔鏡下手術・ロボット支援下手術から緊急手術対応も可能としています。薬物療法はTNF阻害剤などの生物学的製剤は化学療法センターで行い、薬剤師の管理下の元に二重チェックの上で行なわれます。栄養療法はIBD疾患にとって重要な治療ですが、年齢層が若年であることが大きな要因で服用コンプライアンスが問題となることがしばしばあります。経過に大きな影響を与える治療ですので、栄養科には服用指導をお願いしています。また同様に若年層での患者が多いため進学、就職、結婚、出産などの問題を抱えながらメンタルサポートが必要な患者にはメンタルケアも行います。ストマケアは消化器外科外来のストマ外来で行います。

センターは現在外科3名(1名兼任)、内科5名(1名兼任)、小児科2名、専任薬剤師3名、栄養士1名、臨床心理士1名、地域医療連携1名で構成されています。

● 診療対象疾患

炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎・クローン病・腸管ペーチェット)に加え、機能性腸疾患である過敏性腸症候群や良性腸疾患(大腸憩室症・過長症など)、慢性便秘症なども専門性をもって診療しております。とりわけ近年増加傾向にある慢性便秘患者を対象に便秘外来を設け、肛門内圧測定や排便造影検査など専門的な検査も行っています。

炎症性腸疾患のうち潰瘍性大腸炎は9割が軽症であることより、長期間緩解状態であれば医療連携にて紹介、クローン病は潰瘍性大腸炎以上に治療が難渋することが多いものの、同様に医療連携のもと治療を継続していくことがあります。特殊な疾患として家族性地中海熱腸炎があります。周期性に発熱し、腹痛などの消化器症状、IBDに似た内視鏡所見を示し、治療に抵抗性です。小児科の協力を得て遺伝子解析を行い、今まで数名の患者さんを同定できています。治療はコルヒチンの投与が有効とされています。

良性腸疾患で最近の傾向としては急性期の憩室炎や慢性の経過を取り瘻孔や狭窄を伴う憩室症が増加しています。従来は右側結腸に多いとされていましたが、左側結腸にも発生する患者が増加しており、IBD同様に欧米化の傾向が認められ、無症状のうちに経過する憩室症にしばしば遭遇します。高齢化に伴う疾患としてはS状結腸捻転症、慢性便秘があります。S状結腸捻転症には当院ではSharon手術を導入しています。開腹手術ですが6cmほどの小開腹創で行い、1時間半程度の手術時間で終わるので腹腔鏡手術より時間が短く創の長さもほぼ変わりません。また慢性便秘症には糖尿病やアミロイドーシスなどの病気による二次的なものから高齢化によるものまで多彩です。一般的に女性の病気と認識されていますが70歳代からはその発生は男女ともに増加し、ほぼ同数となります。慢性便秘は生命予後因子ともなりますので治療が必要です。

国民の最近の食性生活の変化や高齢化による要素を多く含む疾患でその需要はますます高まるために当センターの役割の重要性は増すものと思われまます。

外来日

受付午前	月	火	水	木	金	土
内科			福澤誠克			班目明 1・3・5週
外科		勝又健次			勝又健次	
小児科		西亦繁雄	堤範音		西亦繁雄	西亦繁雄 1・3・5週
受付午後	月	火	水	木	金	土
内科		班目明	吉村直樹		福澤誠克	
外科		栗原寛		栗原寛 (便秘外来) 1・3・5週	ストマ 外来	
小児科	西亦繁雄 1・3・5週					

診療実績 外科

疾患	2020年11月-2021年3月	2021年4月-2022年3月
IBD 関連手術	15	19
良性腸疾患手術	3	8

内科・小児科

疾患	2022年3月-2022年3月
IBD 関連大腸内視鏡	148 (UC:116, CD:29, ペーチェット:3)
IBD 関連小腸内視鏡	7 (バルーン拡張1例)

設立時集合写真

